

Slerが拓く ロボットの未来

16

筑波エンジニアリングは、設計から部品加工、組み立て、プログラム制御まで社内で一貫生産体制を持つ。生産設備や自動機などさまざまな装置の製作を手がけ、自動車や医療機器、半導体など取引先の分野も幅広い。加工部門を持つロボット

筑波エンジニアリング

インサート成形自動化提案

システムインテグレータは珍しく、多くの部品は内製する。短納期に対応できるほか、設計と生産の連携によりさまざまな要求に柔軟に対応できる強みがある。

近年はロボットを活用した自動化提案に力を入れている。2015年に「ファナックロボット会」に加盟。技術を熟知するファナック製ロボットを中心に、把持部品や搬送機器など周辺装置を組み合わせて用途に応じた最適なシステムを製作して顧客に提供する。ロボット化で筑波エン



ジニアリングが得意とするのが、インサート成形の自動化だ。成形機への部品の挿入や取り出しをロボットで自動化するも

ので、部品挿入の位置やタイミングには高い精度が要求される。同社ではカメラや力センサーを駆使してこれを実現、サイ

を背景に、複雑な工程だけなく、単純作業の自動化要求が最近増えている。そこで同社が3年前に始めたのが、ファナックのマシンングセンター

を、クルエーティブな仕事をしやすい社風がある」と自社の特徴を説明する。

クルタイムを守り、量を安定化する技術に自信を持つ。生産現場の人手不足の課題を、ロボットで自動化。MCとロボットの両方のプログラムを最適化できるのは、社内での実務にMCを活用している筑波エンジニアリングならではの強みを生かした技術提案と言える。

【企業概要】
▽所在地 茨城県稲敷郡阿見町阿見原5445の8、029・840・2455
▽資本金 4000万円
▽売上高 約5億円(19年11月期見通し)
▽従業員 35人
▽設立 77年(昭52)2月
(水曜日に掲載)

システムの人材が最大の経営資源

だ。同社では、部長や課長などの役職を設けず、社長を除く全従業員がフラットな立場という珍しい組織体制を持つ。大槻雅晴社長の長男で営業担当の大槻歩氏は「若い人も責任感を持って仕事をしている。上下関係がなく、クルエーティブな仕事をしやすい社風がある」と自社の特徴を説明する。